

平成三十年 「花のまわりみち」

川柳入選句

小島 蘭幸 選

天地人・秀逸

「天位」

付度をしない桜は散っていた

山下 宅夫(天平)

(評) 自然のままに咲いて散る桜は、人間の都合を推し量ることなんてしないのです。自然のままがいいのです。

「地位」

あの世にも届けたくなる福祿寿

山本 彰

(評) 花のまわりみちには、故人との思い出が溢れています。今年の花、福祿寿、天国から見えますか。

「人位」

花万はなばんだ朶髪を遊ばす風のあり

野津 訓子(訓子)

(評) 満開の桜と、風に靡く髪、もうこれだけで美しい絵です。

「秀逸」 (五句)

風に舞うやさしい花に母想う

西 島 悟

(評) いつも一緒に来ていた花のまわりみち、風に舞う花びらに、やさしい母を重ねているのです。

声のトーンあげて再会回り道

飛 田 要 司

(評) 花のまわりみちで偶然の再会、懐かしさと喜びが、声のトーンに出ています。

苦も哀も一刻忘れ花に酔う

斉 藤 千 恵 美

(評) 美しい桜の下で趣味の仲間との話が弾みます。やすらぎの一刻です。

琴の音に故人の声を聞くサクラ

吉 川 美 佐 子

(評) 花のまわりみちに琴の音が響きます、その琴の音に友の声を重ねているのです。

桜見て空を見上げて孫を抱く

高 橋 貞 夫

(評) 桜、空、孫、一連の動作がポジティブで明るいです。

佳作

(十八句)

| | |
|-----------------|-------|
| 過ぎ去りし淡い想いと葉桜と | 清水和子 |
| 車座になって桜を浴びてます | 若山宗彦 |
| 会いに来た今年の花の福祿寿 | 正木巧 |
| 子を抱いて父と歩いた桜道 | 新田久美子 |
| 落花踏む幸せもありまわりみち | 吉川徳子 |
| 夫の名を呼んでみました花吹雪 | 小林ヒデ子 |
| 桜観る優しい気持ち持ち帰る | 山根ナツエ |
| 花くらべ今年も友と笑い合う | 藤林直子 |
| まわり道八重の向こうに母さがす | 日名和之 |
| 妹と並んで歩く花の道 | 橋本正子 |
| 福祿寿幸せ運ぶまわりみち | 兒玉ありさ |
| 桜咲く母と二人で夢の道 | 村田和美 |
| 楊貴妃と名付けた花に人ばかり | 小西博子 |
| 花豪華五七五に詠み切れず | 石橋康徳 |
| 白ピンク花の数ほど笑顔咲く | 野坂逸生 |
| お花見に来た人みんな写真取る | 浅倉美裕 |
| 桜道美女と歩いて楽しいな | 山口厚 |
| 最終日散り行く桜のいとおしさ | 小原昭夫 |

選者吟

福祿寿のまるさの中にいるひとり

小島蘭幸